

# Ⅵ コロナ禍でも学び続けるための授業研究会の工夫

## Ⅵ グループに分かれて学ぶ授業研究会

D小学校

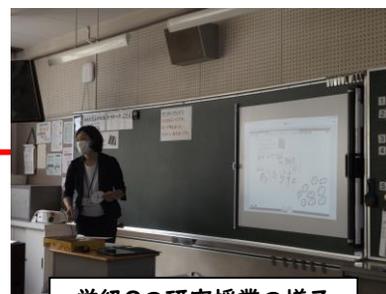
コロナ禍においても教員が学び続けるための方法として、学年の全学級で同時に研究授業を公開し、参観者の密を避けるためにグループに分かれた授業研究会が行われています。授業の内容は「単元計画」と授業のねらいが焦点化でき、流れが一目でわかる「授業プランシートⅡ」（平成29年度総合教育センター研究成果物）を活用し、学年で統一されています。参観者はあらかじめ参観する学級が決められており、授業協議会も同じグループで開催されました。



学級Aの研究授業の様子



学級Bの研究授業の様子



学級Cの研究授業の様子

各教室に分かれてのグループ協議では、まず授業者から本時についての説明がありました。協議の内容を検討する際にICTを活用してまとめておくことで、学年での取組がどのグループでも同じように発表されました。その後、学校で大切にされている視点を基に、授業の分析をしました。「授業プランシートⅡ」を拡大したものを3グループ分準備し、ピンクの付箋(よかった点)と水色の付箋(改善点)を使って協議しました。

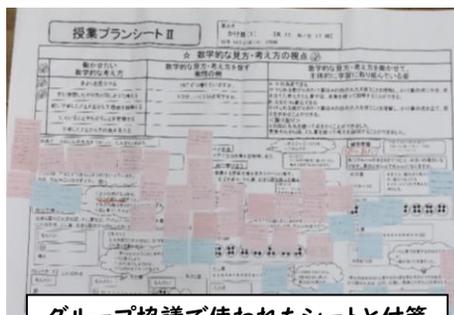
協議で使用した「授業プランシートⅡ」は、教員がよく利用する会議室に掲示されており、学びを共有する工夫がされていました。



授業協議会の様子①



授業協議会の様子②



グループ協議で使われたシートと付箋



D小学校  
校内研究主任

コロナ禍で全員が集まったの研究会が難しくなったので、参観した授業ごとの授業研究会になっています。学年の先生が全員公開授業をするということで、一人の先生に負担がかかるのではなく、**得意なことを分担して自分事として授業に臨む**ことができます。また、担任の先生は、全員が授業を公開することになるので、**一人ひとりの授業改善**につながっています。



ある若手教員は、「授業研究会では、研修会や書籍では学びにくい先生の話し方や子どもへの接し方などが学べる。**校内で実際の授業を参観して協議できる授業研究会は、とても貴重な学びの場だ**」と話しています。コロナ禍でも教員が学び続けるための場を設定していくことは大切ですね。Ⅲ ICTを活用した授業研究会では、ICT活用による学びの場の工夫も紹介しています。